



生物質は意味がないと考えていました。しかし、風邪によって体力が奪われることに細菌感染からいろんな炎症（肺炎など）が起こることは否定できません。そこで今でも風邪で抗生物質が処方されるようなのです。

それに対し著者は、「確かに抗生物質の服用によってわずかに有益な作用があるかもしれないが、それ以上に大きなリスクを抱えてしまう」というのです。副作用のない薬などありませんから副作用が出たり、本当に使わなければならぬ状態の時に利かなくなっていたり。僕の感想としてはやはり「風邪に抗生物質は不要」です。

日本の医療制度は決して悪いものではないのですが、医者信仰、薬信仰が決して自

分たちのためになっていないことを考えなければなりませんね。お金の話だけでなく、病院でもらった薬を飲んだら体調が悪くなるというのは本末転倒です。

ちなみに僕が小さい頃、風邪をひいたりすると「あんたは弱いねえ。誰に似たのかしら。」などと親に言われていました。それがつらくて中学時代から風邪っぽくても元気を装って学校に行っていました。おかげで風邪をほとんどひかない体に鍛えられ中高と病欠はなし。大学に入った途端二日酔いで休んじやいましたけど。

むし歯はどんどん大きくなる？

うちの診療室でむし歯を削って処置をするかどうかの基準は、「このま

ま放置することで何か症状が出るかどうか」です。もちろん、現状で症状のある方へは至急処置を行います。むし歯は存在するけど症状もない、今まさに進行しているわけではなさそうだというケースでは未来予想なのです。歯磨きはちゃんとしている、他の歯のむし歯やその進行度合い、さらにはご本人のキャラクター。これは非常に難しい判断なのですが、余計に削ってしまうことの弊害は計りしれません。

ちなみに数十年前まで「むし歯は治らないのだから小さいものでも削らなければならない」という時代がありました。しかし、その結果は「削り過ぎで抜く歯が増えた」でした。

かなり難しい判断ですが、歯医者の腕の見せどころ！ですね。